

令和 7 年度大牟田市総合教育会議 会議録

◆ 日 時 令和 7 年 10 月 30 日（木）16 時 00 分～17 時 00 分

◆ 場 所 大牟田市役所 市長応接室

◆ 出席者

関市長、谷本教育長、嶋田委員、山本委員、東委員、木場委員

教育施策関係部署

（企画総務部）森部長、久富副部長

（市民協働部）大倉野部長

（教育委員会事務局）坂井事務局長、平河教育監、高口事務局次長、学校再編推進室 松尾室長、永井主査、教育みらい創造室 松葉室長、宮崎指導主事、学校教育課 小宮課長、指導室 中村室長、学務課 石丸課長、学務課 木下給食担当課長、人権・同和教育課 大淵副課長

（事務局：企画総務部総合政策課）新田課長、大石主査、目野

・傍聴者：1 名

◆ 議 事

[議題]

1. 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会の検討状況について

事務局より説明。

意見等なし。

[意見交換]

委員

昨年度の本会議においてお願いしていた不登校児童生徒の学びの場「ハートフルルーム」への学習指導員の配置時間の増加や、ICT支援員の増員、給食調理室への空調設備設置など、多方面で配慮いただいたことに感謝申し上げます。

また、子どもたちへの本物の文化芸術体験の提供について、本年度も日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会への招待や、地元の芸術家による学校訪問、小学 6 年生の近代化産業遺産見学など、様々な取り組みに対し、配慮いただき、感謝申し上げます。

小中一貫教育制度については、中 1 ギャップの解消や不登校児童生徒の減少に成果が見られる。全国的に不登校が急増する中、大牟田市が減少傾向にあるのは、地域学校協働活動推進員やスクールソーシャルワーカーの努力が大きいと思われるため、継続した配置など、引き続きの支援をお願いしたい。

また、義務教育学校の設置に向けて、本年度は基本構想や基本計画の策定を行う事業者の選定に取り組みると伺っている。施設整備には多額の予算が必要と思われる。厳しい財政状況下とは推察するが、義務教育学校の設置

に向けた支援をお願いしたい。

また、学力向上について、児童生徒の学力を向上させるためには、児童生徒の実態に応じたきめ細やかな指導とともに、家庭学習も含めた学習習慣の定着化が重要である。これまでもスタディサポーターによる補充学習の実施や、家庭学習の啓発、学力向上アドバイザー派遣による授業改善研修等に取り組んできた。

現在、タブレット端末が児童生徒に一人1台配置され、学習レベルに合わせたデジタルドリルや学習支援ソフトを活用し、学力向上に取り組んでおり、若干の向上は見られるものの、十分な成果を上げるまでには至っていない。児童生徒一人一人の学力の状況を精密に分析する学力調査を継続することで、指導改善に役立つデータが得られて学力向上に繋がる。引き続き、これらに必要となる支援をお願いしたい。

委員

スクールソーシャルワーカーは、学校経営や不登校児童生徒の学校外の居場所である「サテライトスペース」の運営に欠かせない存在だが、令和6年度の相談対応の延べ件数は9人で7,888件にも及んでおり、現在は会計年度任用職員としての雇用であると伺っている。

スクールソーシャルワーカーが児童生徒や保護者と信頼関係を築くには、中長期的かつ継続的な関係性が不可欠であり、不安定な処遇では人材の流出も懸念される。一朝一夕には確保できない素晴らしい人材を確保するためにも、正規職員としての採用を強くお願いしたい。

また、特別支援教育支援員について、以前より増員配置に向けて配慮いただき感謝する。これまでの増員配置により、支援が必要な児童生徒への対応だけでなく、担任と連携することで学級全体の落ち着きが見られるなど、大きな助けとなっている。

一方で、支援を必要とする児童生徒は年々増加しており、現在の予算枠のままでは十分な支援時間の確保や増員が困難な状況にある。

学校は子どもにとって「もう一つのお家」であり、そこでの生活が全ての子どもにとって安心・安全なものとなるよう、更なる人材確保と増員配置への支援をお願いしたい。

最後に、施設整備について、給食調理室への空調設備設置や再編に伴う白銀中・御木中の施設整備のための予算確保に感謝申し上げます。一方で、学校施設の長寿命化に向けた大規模改修事業の予算計上が見送られたと伺っている。学校だけでは対応困難なほど大きくなった敷地内の樹木の伐採・剪定を含め、教育環境の充実をお願いしたい。

また、体育館への空調設備設置についても、避難所機能の強化や酷暑下での安全確保の観点、ならびにPTA連合会からの強い要望を踏まえ、非常に高額ではあるが、早期の取り組みをお願いしたい。

委員

教職員の働き方改革について、長年大きな問題となっている長時間労働の

改善を図り、次代を担う教職員を確保するためにも、実効性のある改革に取り組まなければならないと思っている。

本市においても、教育課程や行事などの整理や効率化、部活動指導員の配置などが積極的に進められており、本年度からは小学校における2学期制の導入や校務DXの推進など、教職員が子どもと向き合う時間を確保するための取り組みが進められている。こうした改革をより効果的なものにするには、教員業務支援員や学習指導員、ICT支援員の配置充実が欠かせないと感じている。

しかし、現実には、以前は各校に配置されていた教員業務支援員が予算の関係で現在は7名にまで減っている。また、学習指導員についても、「ハートフルルーム」等での配置時間が足りない分を現場の教職員が補っている状況があり、特に小学校では非常に苦労しながら取り組まれている。

ICT支援員についても増員はいただいたが、国基準の「4校に1人」にはまだまだ足りていない状況。これらの専門人材を安定的に導入できるよう、引き続き予算確保のご支援をいただきたい。

また、部活動の支援について、中体連等の大会参加時におけるバス借り上げ費用の予算確保を、昨年に引き続き強く要望する。保護者や引率者が自家用車等で送迎を行っているケースもあり、万が一交通事故が発生した場合には、責任や補償問題が生じる恐れがある。部活動は子どもたちの成長や本市の「まちづくりは人づくりから」という考え方にも繋がってくるものだと思うので、改めて支援をお願いしたい。

吹奏楽部等の楽器の老朽化について、本年度は市民の方からの寄附により一定の更新が図られたが、依然として耐用年数を超えた古い楽器が多く、中にはテープで補修しながら使い続けているものもある。楽器は非常に高価であり、各学校の予算で対応できるものではないため、子どもたちがより良い環境で活動に専念できるよう、更新に向けた予算確保をお願いしたい。

委員

夜間中学校「ほしぞら分校」への継続的な支援に心から感謝申し上げる。教育委員として何度か現場を訪問させていただいたが、10代から80代まで、また国籍も多様な方々が、学ぶことの楽しさを感じながら学校生活を楽しんでおられる。また、「誰一人取り残さない」学びの考えのもと、「学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）」の指定も受けている。

不登校対策については、令和6年4月から校内教育支援センター「ハートフルルーム」や、学校外の居場所である「サテライトスペース」が各地区公民館に設置されたことで、不登校児童生徒数に減少の兆しが見えてきた。この改善傾向が続くことを願っている。

子どもたちが家から外へ一歩踏み出し、安心して過ごせる環境をつくるためには、人の確保が不可欠である。今回、学習指導員の配置時間数は拡大されたが、一方で、中学校へのスクールカウンセラーの配置時間数が大幅に削

減されている。不登校対策が効果を上げつつある今だからこそ、「誰一人取り残さない学びの保障」に向けた継続した取り組みが必要である。引き続き、校内教育支援センターの学習指導員や「サテライトスペース」のサポートスタッフの配置を含めた体制強化や相談しやすい環境づくりのための支援を、今後ともお願いしたい。

市長

委員の皆様には、日頃より学校現場に足を運んでいただき、また、貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

山本委員からいただいた専門人材の確保について、地域学校協働活動推進員やスクールソーシャルワーカーの皆様の貢献は私も認識しており、できる限りの予算確保に向け、教育委員会とも協議を進めていきたい。

嶋田委員からいただいたスクールソーシャルワーカーの正規雇用化については、ご本人の意向や他職種とのバランス等、整理すべき課題もあるが、まずは処遇の改善について教育委員会としっかりと協議していきたい。

また、特別支援教育については、児童生徒によって支援する内容や必要性が異なっているということは十分理解している。支援を必要とする児童生徒が増加してきていることも十分理解しており、できる限りの対応をしていきたい。

空調設備について、給食調理室への設置は、計画的に、着実に進めている。また、屋内運動場への整備については、私自身も学校へ行くたびに、子どもたちから本当に強い要望を受けている。また、地域からも、避難所となるのでこの暑さを何とかしてほしいという声をいただいている。ただ、かなりの予算が必要となるため、国の補助制度なども十分把握しながら検討していきたいと思っている。

東委員からお話のあった働き方改革について、先生になりたいと希望する人が減っている現状もあり、良い教育には先生方が熱意を持っていること、しっかりと配置されていることが重要だと思っている。教育委員会でも、2年前から水曜日は早めに授業を終了し、部活も行わず、子どもたちと向き合う時間にするなど新しい取り組みを進めていただいている。予算の問題も含め、現場の知恵も借りながら進めていきたいと思っている。

部活動のバス借り上げについては、昨年もお願いをいただいていたが、優先順位を付けていく中で、なかなか予算化できなかったのが実情である。今後についても、空調設備設置などの大きな課題も踏まえた中で検討させていただきたいと思っている。

また、吹奏楽部の楽器については私も同じ認識で、いつまでも子どもたちが楽しそうに活動してほしいという思いである。本年度、寄附で一部を更新したが、市の予算に加えて、ふるさと納税など、多くの方に子どもたちを応援してもらうための知恵を絞り、更新できる方法を考えていきたいと思っている。

木場委員からお話いただいた夜間中学について、本当に学びたいという生徒さんの思いが満ち溢れており、それをサポートする先生方も素晴らしい、本当に良い学校だと思っている。スタートしたばかりだが、良い形で定着するよう市としても支援していきたい。

また、不登校対策について、不登校児童生徒数が初めて減少に転じたという改善の兆しをしっかりと継続させていく必要がある。「ハートフルルーム」や「サテライトスペース」という仕組みは作ったが、そこが本当に子どもたちが安心して行ける場所になるには、そこをサポートしていただくスクールソーシャルワーカーや先生方の力が必要だと思うので、現場の声を聞きながら、中学校へのスクールカウンセラーの配置時間の問題も含め、できる限りの支援をしていきたいと考えている。

どれもこれも実現したいという思いは教育委員の皆様と同じ。限られた予算の中で、どういう優先順位で子どもたちをサポートしていくか、教育委員会や校長会を含めた現場の声を聞きながら、できる限りの取り組みをしていきたい。

教育長

教育委員の皆様におかれては、日頃より教育委員会議で熱心にご議論いただいている。それに加え、学校訪問等にも全員参加され、学校行事等についても直接足を運んでいただくなど、学校現場の様子を隅々まで見ていただいていることに、改めて感謝申し上げます。

本日、委員の皆様から様々なお話を聞かせていただいたが、どれも「肌感覚」として現場で感じられた上でのご意見だと、私自身しっかりと受け止めた。今後、これらのご意見を踏まえ、委員の皆様としっかりと意見交換を行い、また校長会等の意見も聞きながら、本市の教育政策に全力で取り組んでいきたいと考えている。施策の推進に当たっては、市長の支援が必要不可欠なので、ぜひともよろしく願いしたい。

以上（17:00）終了